

1. 学校マネジメントの深化

【観点II】「短期及び年度を跨いだ検証・改善の実施」

取組実践校：佐伯市立宇目緑豊中学校（生徒数：60名）

「全体とチームとの往還をつくり出す検証・改善の工夫」

- 年間を見通した、全体とチームの往還による検証・改善の実施
- 達成状況確認の方法の具体を予め共有することによる確実な検証の実現

具体的な取組① 年間の見通しを共有

- ◇年度当初に、検証・改善に係る予定を確認し、チームリーダーを中心に、全教職員で見通しを共有
 - ・年間5回の検証・改善時期を年間・行事予定に位置付け、全員で早めを確認
 - ・学校運営協議会の開催時期との連動を意識した時期を設定

◎取組①・②により、いつ、誰が、何をするのかが明確に。

- ・若手を含む全教職員が見通しを持つことで、チームリーダーが中心となって、主体的に検証・改善を進めることが可能

具体的な取組②

検証するための様式を工夫

実施率 取組指標の	取組指標に対する 取組状況の確認	達成指標に対する 達成状況の確認	達成指標・取組指標 の妥当性を 検証	改善方策
		〇2学期期末テストにおいて		
		・得点7割以上の生徒60%以上		
		国語 社会 数学 理科 英語 平均 全平均		
		1年		
		2年		
		3年		
		平均		
		〇達成率%		
		・得点3割以上の生徒90%以上		
		国語 社会 数学 理科 英語 平均 全平均		
		1年		
		2年		
		3年		
		平均		
		〇達成率%		

◇達成状況確認の具体を予め設定

全体・チームの往還による検証・改善

全体

各チームで確認した達成状況・取組状況等をもとに各チームの検証・改善の視点を全体で確認

チーム

各チームで、「検証・改善プロセス」に沿って検証し、改善方策を検討

チーム

※管理職・教務主任が指導・助言し、必要に応じて、チームで再検討

全体

各リーダーが取りまとめた検証内容や改善方策について全体で協議し、改善方策を確定

全体

教務主任が新しい4点セットに取りまとめ、全体で共通理解し、取組へ